

初 年 次 教 育 学 会

ニュースレター 第 9 号

Japanese Association of First Year Experience
at Universities and Colleges

初年次教育学会 事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(5937)0473 FAX: 03(3368)2822

E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

事務局

法政大学 藤田哲也研究室内

今号の内容

1. ご挨拶
2. 事務局からのお知らせ
3. 学会誌編集委員会からのお知らせ
4. 第 10 回大会について
5. 課題研究担当理事からのお知らせ
6. 2016 年度「初年次教育実践交流会」報告
7. 将来構想実行委員会からのお知らせ
8. 編集担当より

1. ご挨拶

会長 安永 悟 (久留米大学)

今年も新入生を迎える季節になりました。会員の皆さまにおかれましては受け入れ準備にお忙しいことと思います。初年次教育に関わる私たちにとっては特に忙しい時期ですが、これまで積んでこられた研鑽を存分に発揮され、前回よりも質の高い教育実践を通して、初年次教育の必要性和有用性を広く示していきたいものです。

新入生は大学という新しい世界に対して多少の不安を抱きつつも大きな期待をもって入学してきます。その新入生の期待を裏切らない程度の教育では不十分です。新入生の期待以上の成功体験を演出し、将来、それぞれの現場で活躍できる人材を育成することが、高等教育の一翼を担う私たちの責務であると考えています。「言うは易く行うは難し」といいますが、教育目標を高く掲げることにより、目標達成への道のりが明らかになり、正しい方向に向けての一步を踏み出せます。決して平坦な道ではありませんが、会員同士の交流をさらに深め、連携協力して、すべての新入生が胸を張って社会に巣立てるよう共に支援していきましょう。

2. 事務局からのお知らせ

事務局長 藤田 哲也 (法政大学)

いつもお世話になっております。事務局長の藤田哲也 (法政大学) です。事務局から 3 月 18 日に皆様に向けて配信したメール内容と重複するものも含まれますが、重要なことをいくつかお知らせいたします。

(1) 大会時の自然災害等への対応について

年次大会開催に台風等の自然災害が重なった場合の対応方針をガイドラインとしてまとめました。学会 HP

の大会情報 (<http://www.jafye.org/conf/>) にも掲載しておりますのでご覧いただきたく思います。

(2) マイページ活用をお願い

昨年度からマイページの運用が始まっています。マイページからは、会員情報 (所属等) の変更が行えます。4 月以降、異動される方、メールアドレスを変更される方などは、ご自身で登録情報を変更することができます。年会費の納入状況もご確認いただけます。ぜひご活用ください。

初年次教育学会マイページへのアクセス方法

- a. 下記 URL からマイページへアクセスする。
- b. 「会員番号」「パスワード」を入力し「ログイン」をクリックする。

マイページ URL :

<https://iap-jp.org/jafye/mypage/login/login>

※学会ホームページからもマイページにアクセスできます。

ログインに必要な「会員番号」「パスワード」は、2015 年度に既に会員だった方には 2016 年 3 月 16 日頃に、2016 年度以降に入会された方には入会時にお送りしたメールに記載されています。今後とも必要となりますので、お手元にお控えください。

(3) 役員 (理事) 選挙を行います

2017 年度は、2 年ごとに行われる役員、すなわち理事選挙の年にあたります。現在、4 月 15 日投票開始、5 月 8 日投票締め切りという期間で実施できるよう、選挙管理委員会を設置して準備を進めているところです。

被選挙権を有するのは 2016 年度に個人会員であり、当該役員選挙投票締切日において引き続き個人会員であり、2016 年度までの学会費を納入している方になり

ます。また、選挙権を有するのは、選挙開始日の2ヶ月前（今回は2月15日）において個人会員であり、会費納入に滞りのない方になります。4月15日直後に投票用紙および選挙要項をお送りする予定です。お手元に届きましたら、要項をよくお読みいただいた上で、投票をよろしくお願ひ申し上げます。

その他、何かご不明な点などございましたら、お気軽に事務局にお尋ねください。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

3. 学会誌編集委員会からのお知らせ

編集委員長 沖 清豪（早稲田大学）

2017年3月中旬発行予定の初年次教育学会誌第9巻第1号の発行が諸般の都合で遅れており、会員の皆様にはご心配ご不便をおかけしております。現在4月中の発送を目指して編集作業の最終段階に入っておりますので、学会誌到着まで今しばらくお待ちください。

次号は第10巻第1号となります。引き続き会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。ここでは原稿募集の概略をお知らせします。

(1) 次号の発行時期について

2018年3月中旬の発行を予定しております。

(2) 投稿論文の締切について

第10巻の投稿締め切りは2017年5月末日となります。ただし、学会誌の編集規程および論文の執筆要領に従っていない場合には、投稿論文を受領することはできません。提出期限間に投稿された論文については、規程・要領に従っているか否かの確認が期限後となり、結果的に受理できない（査読対象外となりますので査読結果のコメントも返送されません）場合がありますのでご注意ください。特に図表については本文中には掲載希望箇所を示すだけとして、実物はいずれもテンプレート後半の該当ページに掲載することになっております。図表を掲載される予定の皆様には改めてご注意ください。幸いです。

(3) 原稿の執筆、投稿、その他詳細について

初年次教育学会のホームページに記載している「初年次教育学会誌執筆要領」「執筆テンプレート」をご参照ください。指定した書式通りでない原稿は受け付けることができませんのでご注意ください。

<http://www.jafye.org/society/regulations/shippitsuyoryo/>

(4) 投稿論文の提出先について

2016年度まではメールで投稿論文を受け付けており

ましたが、2017年度（第10巻第1号）からは学会HPに投稿フォームを設置しますので、そこから投稿をお願いいたします。システムが稼働しましたら別途全会員にメールにてお知らせいたします。

(5) 投稿資格および1巻あたりの投稿数について

本誌に論文を投稿することができる者は、共同執筆者を含め、前年度までに入会し3月末までに会費を納入している個人会員および機関会員に限られます。また、1巻あたりに投稿できる論文の数にも定めがあります。詳細は、初年次教育学会誌編集規程第9条をご確認ください。

<http://www.jafye.org/society/regulations/henshukitei/>

なお、第9巻の投稿論文査読に際しては、先行研究の検討、課題設定の明確さ、および課題設定と結論との整合性などについて、論文として期待される水準に達していないという査読意見が複数出されました。研究論文を執筆される際はもちろんのこと、事例研究論文をまとめられる場合も、何を検証しようとしているのか、それはどこまで検証できたのか等といった点についても意識されると投稿論文の質が高まるものと思われまます。ご検討いただけますと幸いです。

4. 第10回大会について

第10回大会実行委員長 大西 直之（中部大学）

2017年9月6日（水）・7日（木）の両日、初年次教育学会第10回大会を中部大学（愛知県春日井市）にて開催いたします。

発表申込受付は4月4日（火）～5月15日（月）、参加事前申込受付は6月13日（火）～8月3日（木）を予定しています。学会HP上の第10回大会HP（4月4日公開予定）よりお申し込みください。なお、本大会では発表申込と同時に発表要旨原稿を提出していただく必要がございます。締め切りに間に合うように、原稿のご用意もお願いいたします（※発表申込受付日程が前大会よりも1ヶ月程早くなっておりますのでご注意ください）。

本大会のテーマは『初年次教育と学生コミュニティ：授業内外で育む学びの成長』です。大学初年次における学生達の主体的・能動的な学びを促進するために、学生間相互の（学びを前提とする）コミュニケーション、協同的・協働的な学びが重要であるとの立場から、「学びのコミュニティ」構築を支援するための学生理解、高校から大学初年次にかけての授業外・授業内の取組事例などを取り上げた大会企画シンポジウムを第1日に開催します。

一方、第2日の課題研究シンポジウムにおいては、DP・CP・AP3ポリシーの体系的策定（見直し）と公表が進む中で、初年次教育の役割や位置づけをあらため

てどのように捉えていくべきかという課題を、会員調査（実施予定）の結果を交えながら「3つのポリシーと初年次教育」のテーマで取り上げて参ります。

節目の第10回かつ東海地区初となる本大会を本学で開催できますことは非常に名誉なことと存じます。充実した大会となりますよう、関係者一同しっかりと運営にあたって参る所存です。多数のご参加を心よりお待ちしております。

5. 課題研究担当理事からのお知らせ

課題研究担当 濱名 篤（関西国際大学）

(1) 課題研究について（報告）

次回学会大会では課題研究としてシンポジウム「3つのポリシーと初年次教育」を開催する予定です。

昨年3月の学校教育法施行規則に伴い、学位プログラムを単位として、学位授与・卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシーDP）、教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシーCP）、入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシーAP）の3つのポリシーを見直し、本年3月末までに公表することを各大学に求めました。こうした3つのポリシーの中で初年次教育はどのように取り扱われているのか、高大接続改革の中で初年次教育を位置づけていけばいいのかについて議論します。

(2) 会員調査の実施について

前述の学会大会時の課題研究シンポジウムでの議論のための材料として、また会員各位に対する情報提供のために、「3つのポリシーと初年次教育」についての会員WEB調査を実施します。詳細は改めてお知らせしますが、実施は5月のGW明けの時期を予定しています。会員の皆さまの回答をよろしくお願いします。

6. 2016年度「初年次教育実践交流会」報告

地域活動活性化委員会 藤本 元啓（崇城大学）

2016年度は計3回の「初年次教育実践交流会」を開催しました。熊本の崇城大学での開催を予定していましたが、4月の熊本地震で会場校が思いの外被災したため、次年度以降に延期することになりました。次年度は5月に北陸での開催、久留米大学では「授業づくり研究会」との共催を予定しています。詳細は追ってお知らせいたします。

実践交流会は地域の実情や、集う仲間の要望に応じて自由に企画・運営していただければと思います。取りあげる内容は初年次教育に関係していれば幅広く柔軟に考えられて構いません。参加者も初年次教育に関心のある方であればどなたでも参加できるようにしてください。ただ、講演会等のご遠慮ください。あくまでも実践している正課や課外の授業・プログラム・取組等の成果

や失敗例など、現場担当の教職員各位の報告や話題提供、そして意見交換を趣旨といたします。

実践交流会を開催したいと考えている会員各位は、学会事務局までご一報ください。可能な限り「地域活動活性化委員会」がお手伝いいたします。

以下に、今年度開催の概要等を報告します。

第1回

日時：2016年5月7日（土）13:00～17:00 「授業づくり研究会」共催

会場：久留米大学御井キャンパス学生会館ミーティングルーム3

テーマ：協同学習の基本的な考え方と技法

報告者：安永 悟（久留米大学）

概要：

協同学習の基本的な技法を体験的に理解し、その背後にある「協同の精神」について、調査結果を手がかりに検討した。加えて、LTD話し合い学習法を基盤とした授業モデルの開発と異校種接続について話題提供し、参加者と討議した。

参加者：57名

第2回

日時：平成28年5月28日（土）12:30～17:30

会場：文京学院大学本郷キャンパス

テーマ：初年次教育でどのように学生のモチベーションを維持するか

報告者：

①藤本 元啓（崇城大学）「初年次教育におけるポートフォリオの活用と課題」

②廣瀬 清英（岩手医科大学）「ビブリオバトルの活用と初年次教育」

③川越 明日香（長崎大学）「初年次教育に生かす教学IR」

④鈴木 浩子（明星大学）「教職協働による学部学科横断の初年次教育」

意見・感想のホワイトボード落書きタイム

パネルディスカッションおよびフロアとの意見交換：「初年次教育の課題・問題点」

司会：藤本 元啓

パネラー：廣瀬 清英、川越 明日香、鈴木 浩子

参加者：62名

概要：

初年次教育の学修内容、授業手法、ツール、評価法、学内での理解度など様々な観点からの報告と、フロアとの意見交換で活発な議論が行われた。あらかじめ参加者にポストイットを配り、質問や意見を求め、休憩時間にホワイトボードに掲示していただいた。パネルディスカッションは、報告者への個別質問と全体質問に大別し、

回答と質疑を繰り返した。全体質問では、①初年次教育と後継科目との接続、②初年次教育の全学実施の工夫、③アクティブラーニングへの理解度、④ライティング授業の運営、⑤学生間格差への対応、⑥学生への学習動機付けなどがあった。これらは初年次教育に携わる教職員の共通の悩みとも言え、今後とも本学会の課題となろう。

なおキャリアセンター、学修支援センター等に所属する教職員の参加が多かったことは、初年次教育の全学実施体制を目指す方向性が認められる。また関東地区の開催であったにもかかわらず、関西、東海地区の教職員、教育産業関係者の参加もあり、本交流会の定期的な地方開催ニーズは高いものとみられる。

第3回

日時：2016年12月10日（土）13:00～17:00 「授業づくり研究会」共催

会場：久留米大学御井キャンパス学生会館ミーティング＝ルーム3

テーマ：LTD 基盤型授業モデル

報告者：

- ①安永 悟（久留米大学）「LTD 基盤型授業モデルの提案」
- ②須藤 文（久留米大学）「LTD を活用したライティング指導の実際：看護学生を対象としたエッセイ作成」
- ③長田 敬五（日本歯科大学）「LTD based PBL（LTD に基づく問題基盤型学習）の魅力」

概要：

安永から LTD 基盤型授業モデルの提案があり、その基本的な考え方と授業モデルの活用法について提案があった。それを受け、2つの実践報告があった。まず須藤から、看護学生を対象としたライティング（エッセイ作成）指導について実践報告があった。また、長田からは、歯学部生を対象とした PBL 授業の改善に LTD 基盤型授業モデルを活用した実践例が報告された。いずれも大きな成果を得ており、今後の展開が期待される。

参加者：63名

7. 将来構想実行委員会からのお知らせ

将来構想実行委員会 山田 礼子（同志社大学）

(1) 出版企画について

学会の設立10周年を記念して、『初年次教育の現状と未来』の後継となる書籍を世界思想社より刊行します。「初年次教育のこれまでと現状」「高大接続といった現代的な課題と初年次教育」「初年次教育をめぐる実践的な方法・方略とこれから」といったテーマを柱に内容の検討が始められています。

本学会員はもちろん、大学教職員、高等学校教員はじめ中等・初等教育の関係者などを対象に、理論と実践の両側面から初年次教育について明らかにすることを通

じて、将来に向けた視点を提供したいと考えているところです。期待してお待ちください。

(2) 教育実践賞について

学会では、初年次教育に関する実践の発展とその成果の普及によって大学教育の改善に資するため、「教育実践賞」を創設し、効果的な初年次教育の実践例を表彰して学会内外に広く紹介することとしました。

「2018年度教育実践賞」は2017年度学会大会において公示し、2018年3～4月頃に応募を受付ける予定です。審査の結果、選ばれた取組については、学会大会で表彰するとともに、学会ニュースレターによる通知と学会ウェブサイトおよび学会誌での公表を行います。会員諸氏のこれまでの初年次教育実践への努力と工夫を広め、大学教育の発展に貢献する貴重な機会となりえます。皆様、どうぞ奮ってご応募ください。

8. 編集担当より

(1) 賛助会員による広告添付について

賛助会員には、年1回、会員への情報提供の際に、A4で1ページ分の広告・情報提供資料の添付が認められております。本学会ニュースレターでは第4号より、それまでのメール添付ではなく、学会ウェブの該当箇所 <http://www.jafye.org/index6/nl9.html> に本文（このファイル）および広告データを次号刊行まで掲載します。

なお、学会および学会事務局は、これらの広告内容に関与しておりません。

(2) 実践事例の募集について

ニュースレターに掲載すべき実践事例や事例紹介などを募集しております。掲載ご希望の方は学会事務局にお知らせください。

(3) 事務局分室について

本学会では国際文献社に事務局業務の委託を行っております。問い合わせ等につきましては以下をご確認ください。

事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(5937)0473 FAX: 03(3368)2822

E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

事務局 法政大学 藤田 哲也研究室内

編集：西村 秀雄（総務・広報委員会）

（2017年3月31日第1版公表）